

# 食 品

## 1. 評価対象企業 (21 社)

日清製粉グループ本社、江崎グリコ、山崎製パン、カルビー、森永乳業、ヤクルト本社、明治ホールディングス、日本ハム、アサヒグループホールディングス、キリンホールディングス、コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス、サントリー食品インターナショナル、不二製油グループ本社、キッコーマン、味の素、キューピー、ハウス食品グループ本社、ニチレイ、東洋水産、日清食品ホールディングス、日本たばこ産業

(証券コード協議会銘柄コード順)

## 2. 評価方法

### (1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	3	34
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	18
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	8
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	4	32
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	2	8
計		13	100

(注) 具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

### (2) 評価実施アナリストは 18 名 (所属先 18 社) である。(氏名等は後掲)

## 3. 評価結果

### (1) 総括 (「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲)

- ① 本年度は、説明会等および ESG 関連を中心に項目数、内容および配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 64.7 点 (昨年度 65.2 点) となった。総合評価点の標準偏差は 14.8 点 (昨年度 13.0 点) であった。
- ② 5 つの評価分野毎に平均得点率 (評価対象企業の平均点/配点 (以下省略)) を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 59% (昨年度 63%)、説明会等が 69% (昨年度同率)、フェア・ディスクロージャーが 84% (昨年度 78%)、ESG 関連が 66% (昨年度 65%)、自主的情報開示が 55% (昨年度 52%) となった。
- ③ 評価項目について見ると、全 13 項目のうち、次のフェア・ディスクロージャーの 2 項目について平均得点率が 80%以上となり (昨年度はなし)、高水準であった。

- (a) 「経営陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。また、日英両言語でタイムリーに提供していますか」 (平均得点率 86% [昨年度

78%]) (得点率 (評価点/配点 (以下省略)): 70%台 5社・80%台 7社・90%台 9社)

(b) 「新しい働き方に即して、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供 (説明会、決算説明会の資料・質疑応答、リプレイ、英語対応) を行っていますか」 (平均得点率 82% [昨年度 78%]) (得点率: 60%台 1社・70%台 6社・80%台 9社・90%台 5社)

④ 一方、次の 2 項目 (経営陣の IR 姿勢等の中の 1 項目(a)、自主的情報開示の中の 1 項目(b)) は、平均得点率が 50%未満となり、低水準となった。いずれの項目についても企業間の得点率の差が大きい状況が見られており、下位評価企業の改善努力が望まれる。

(a) 「社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか」 (平均得点率 24% [昨年度 31%]) (得点率: 10%未満 5社・10%台 8社・20%台 3社・30%台 1社・50%台 1社・60%台 1社・70%台 1社・80%台 1社)

(b) 「有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等を、オンラインを含めて有用な形で開催していますか」 (平均得点率 47% [昨年度 42%]) (得点率: 10%台以下 2社・20%台 8社・40%台 2社・50%台 1社・70%台 3社・80%台 4社・90%台 1社)

⑤ ESG 関連の 4 項目は次のとおりであり、いずれも 60%台となった。なお、(b)および(c)は本年度の新規項目である。

(a) 「企業価値の向上につながるようなマテリアリティの設定が行われ、開示されていますか」 (平均得点率 69% [昨年度 68%]) (得点率: 20%台 1社・40%台 2社・50%台 3社・60%台 5社・70%台 6社・80%台 1社・90%台 3社)

(b) 「気候変動問題や生物多様性問題に関して、Scope3 を含めた実績および中長期的な改善目標などを定性・定量両面で開示していますか」 (平均得点率 65%) (得点率: 30%台 1社・40%台 2社・50%台 5社・60%台 6社・70%台 2社・80%台 4社・90%台 1社)

(c) 「ダイバーシティや従業員エンゲージメントなどの人的資本に関する情報および、サプライチェーン上の人権リスクやその対応方針を積極的に開示していますか」 (平均得点率 65%) (得点率: 30%台 1社・40%台 2社・50%台 5社・60%台 5社・70%台 4社・80%台 1社・90%台 3社)

(d) 「ESG に関する取組みについて、統合報告書や説明会等を通じて、市場関係者の理解を得るように努めていますか」 (平均得点率 66% [昨年度 63%]) (得点率: 20%台 1社・30%台 2社・40%台 2社・50%台 3社・60%台 4社・70%台 2社・80%台 3社・90%台 4社)

## (2) 上位 3 企業の評価概要

### 第 1 位 アサヒグループホールディングス (ディスクロージャー優良企業 [18 回目])、

総合評価点 91.1 点 [昨年度比+4.7 点]、昨年度第 2 位)

① 同社は、説明会等 (得点率 (以下省略) 94%)、自主的情報開示 (93%) が第 1 位、経営陣の IR 姿勢等が第 2 位 (89%)、ESG 関連が第 3 位 (90%)、フェア・ディスクロージャーが同得点第 3 位 (94%) となり、いずれの分野においても高水準の得点率であった。

② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能」(第 1 位) および「経営陣の IR 姿勢」(第 2 位) は共に 90%以上の得点率となった。これらに関連して、経営トップを含む経営陣が IR に積極的であり、メッセージを明確に伝えているとの声や、経営戦略のストーリー、課題、施策の進捗などについて市場と共有する姿勢を評価する声が寄せられた。また、IR 部門の機能を常に改善させているとの声もあった。「社外取締役との対話」は第 3 位となった。

③ 説明会等においては、「説明会、説明資料等における開示」および「インタビューにおける開示」が共に最も高い評価となった結果、この分野において第 1 位となった。これらに関連して、海外成長戦略や欧州での利益増減の開示が充実しているとの声、IR 部門とのインタビューにおいて十分なディスカッションができるとの声が寄せられた。

④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「リモートツールによる情報提供」(同得点第 1 位) および「経営

陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること、また、日英両言語でタイムリーに提供していること」(同得点第 5 位)の得点率が共に 90%以上の高い評価となった。これらに関連して、英語対応を含めてフェア・ディスクロージャーに十分対応しているとの声があった。

- ⑤ **ESG 関連**においては、新規項目である「気候変動問題や生物多様性問題に関して、Scope3 を含めた実績および中長期的な改善目標などを定性・定量両面で開示していること」および「ダイバーシティや従業員エンゲージメントなどの人的資本に関する情報および、サプライチェーン上の人権リスクやその対応方針を積極的に開示していること」が共に第 2 位となった。また、「企業価値の向上につながるようなマテリアリティの設定が行われ、開示されていること」(第 3 位)および「ESG に関する取組みについて、統合報告書や説明会等を通じて、市場関係者の理解を得るように努めていること」(第 4 位)の得点率が共に 90%以上の高い評価となった。これらに関連して、事業活動とサステナビリティの取組みをリンクさせて開示しているとの声が寄せられた。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「携わっている業態または業界の分析上有益な情報をタイムリー、かつ積極的に開示していること。例えば、ファクトブック、ウェブサイト等」および「有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等を、オンラインを含めて有用な形で開催していること」が共に最も高い評価となり、この分野において第 1 位となった。これらに関連して、評価できるイベントとして、IR Day、DX 説明会、事業説明会が挙げられ、特に、欧州事業説明会では現地経営陣とのディスカッションや現地フィールドツアーの実施を評価する声もあった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

## **第 2 位 味の素** (総合評価点 90.1 点 [昨年度比+1.8 点]、昨年度第 1 位)

- ① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等** (90%)、**ESG 関連** (94%) が第 1 位、**説明会等** が第 2 位 (87%)、**自主的情報開示** が同得点第 2 位 (83%)、**フェア・ディスクロージャー** が第 5 位 (91%) となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」および「社外取締役との対話」が共に最も高い評価となり、また、「IR 部門の機能」(第 2 位)についても評価された結果、この分野において第 1 位となった。これらに関連して、経営トップが自らの言葉で説明していることや経営陣が IR を積極的に活用していること、さらに市場との建設的な対話や市場の関心を意識した開示をしていることを評価する声が寄せられた。また、社外取締役が市場との対話に積極的であるとの声もあった。
- ③ **説明会等**においては、「説明会、説明資料等における開示」(第 2 位)および「インタビューにおける開示」(第 2 位)が共に高い評価となった。これらに関連して、説明資料が充実しているとの声が寄せられた。なお、イメージ図は充実しているが、より具体的な定量情報の拡充を望む声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「リモートツールによる情報提供」(第 5 位)、「経営陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること、また、日英両言語でタイムリーに提供していること」(同得点第 5 位)の得点率は共に 90%以上となった。これらに関連して、英語対応を含めてフェア・ディスクロージャーに十分対応しているとの声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「企業価値の向上につながるようなマテリアリティの設定が行われ、開示されていること」および「ダイバーシティや従業員エンゲージメントなどの人的資本に関する情報および、サプライチェーン上の人権リスクやその対応方針を積極的に開示していること」が共に最も高い評価となった。また、「ESG に関する取組みについて、統合報告書や説明会等を通じて、市場関係者の理解を得るように努めていること」(第 2 位)も得点率が 95%以上となった。さらに、「気候変動問題や生物多様性問題に関して、Scope3 を含めた実績および中長期的な改善目標などを定性・定量両面で開示していること」(第 3 位)も高い評価となったことから、この分野において第 1 位となった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「携わっている業態または業界の分析上有益な情報をタイムリー、かつ積極的に開示していること。例えば、ファクトブック、ウェブサイト等」および「有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等を、オンラインを含めて有用な形で開催していること」が共に評価され、第 3 位となった。これらに関連して、事業やテーマ別の説明会を評価する声が多く寄せられた。

### 第3位 キリンホールディングス (総合評価点 85.9点 [昨年度比+2.8点]、昨年度第3位)

- ① 同社は、ESG 関連が第2位 (93%)、自主的情報開示が同得点第2位 (83%)、経営陣の IR 姿勢等 (82%)、説明会等 (79%) が第3位、フェア・ディスクロージャーが同得点第3位 (94%) となった。昨年度に比べ、3分野において得点率が改善した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「社外取締役との対話」が第2位となった。これに関連して、説明会において社外取締役との対話を設定していることを評価する声が寄せられた。また、「経営陣の IR 姿勢」および「IR 部門の機能」も共に評価され、第3位となった。これらに関連して、経営トップは投資家に対し真摯に対応し説明をしているとの声があった。なお、経営戦略の方向性に対するメッセージはあるが、進捗の遅れや、実効性についての議論の内容が示せていないとの声があった。
- ③ 説明会等においては、「説明会、説明資料等における開示」が第3位となったが、「インタビューにおける開示」については、同得点第8位にとどまった。これらに関連して、子会社である協和発酵バイオに関する十分な情報提供を求める声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「経営陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること、また、日英両言語でタイムリーに提供していること」(同得点第2位) および「リモートツールによる情報提供」(同得点第3位) が共に 90%以上の得点率となった。これらの結果、この分野において同得点第3位となり、得点率はトップと僅差であった。これに関連して、英語対応を含めてフェア・ディスクロージャーに十分対応しているとの声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、「気候変動問題や生物多様性問題に関して、Scope3 を含めた実績および中長期的な改善目標などを定性・定量両面で開示していること」および「ESG に関する取組みについて、統合報告書や説明会等を通じて、市場関係者の理解を得るように努めていること」が共に最も高い評価となった。また、「企業価値の向上につながるようなマテリアリティの設定が行われ、開示されていること」(第2位)、「ダイバーシティや従業員エンゲージメントなどの人的資本に関する情報および、サプライチェーン上の人権リスクやその対応方針を積極的に開示していること」(第3位) も共に 90%以上の得点率となった結果、この分野において、トップと僅差の第2位となった。これらに関連して、経営陣が気候変動問題や生物多様性問題を重要な経営課題・リスクとして捉えており、プロアクティブな情報開示を行っているとの声が寄せられた。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「携わっている業態または業界の分析上有益な情報をタイムリー、かつ積極的に開示していること。例えば、ファクトブック、ウェブサイト等」(第2位) が高い評価となった。「有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等を、オンラインを含めて有用な形で開催していること」(同得点第4位) も評価された。評価できるイベントとして、Investor Day、CSV 説明会が挙げられた。

#### (3) 上記以外の企業についての特記事項

#### ○ 日清食品ホールディングス (ディスクロージャーの改善が著しい企業、

総合評価点 73.8点 [昨年度比+1.7点、一昨年度比+5.4点]、第5位 [昨年度第8位、一昨年度第11位])

- ① 同社は、ESG 関連が第5位 (80%)、説明会等 (77%)、自主的情報開示 (71%) が第6位、経営陣の IR 姿勢等が第8位 (64%)、フェア・ディスクロージャーが同得点第11位 (85%) となった。昨年度に比べ、4分野において順位または得点率が上昇し、総合評価点で第5位となった。なお、順位は昨年度に比べ3ランク、一昨年度に比べ6ランク上がった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能」が第5位 (昨年度第12位)、「社外取締役との対話」が第7位 (昨年度同得点第9位)、「経営陣の IR 姿勢」が第9位 (昨年度同) となった。これらに関連して、IR 部門とは十分かつ正確な情報に基づいた議論ができるとの声が寄せられた。なお、経営トップの積極的な IR 対応を望む声もあった。
- ③ 説明会等においては、「インタビューにおける開示」が同得点第4位、「説明会、説明会資料等における開示」が第6位となった。これらに関連して、海外の販売数量の開示が増え理解しやすい、注力事業の動向について丁寧に説明しているとの声が寄せられた。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が同得点第10位 (昨年度同得点第2位) となり、「リモートツールによる情報提供」が第11位 (昨年度第5位) となった。
- ⑤ ESG 関連においては、「気候変動問題や生物多様性問題に関して、Scope3 を含めた実績および中長期的な改

善目標などを定性・定量両面で開示していること」および「ダイバーシティや従業員エンゲージメントなどの人的資本に関する情報および、サプライチェーン上の人権リスクやその対応方針を積極的に開示していること」が共に第 5 位となった。また、「企業価値の向上につながるようなマテリアリティの設定が行われ、開示されていること」が同得点第 5 位、「ESG に関する取組みについて、統合報告書や説明会等を通じて、市場関係者の理解を得るよう努めていること」が第 6 位となった。

- ⑥ **自主的情報開示**においては、「有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等を、オンラインを含めて有用な形で開催していること」が評価され、同得点第 4 位となった。これに関連して、評価できるイベントとして、事業説明会、ブランドマーケティング説明会などが挙げられた。「携わっている業態または業界の分析上有益な情報をタイムリー、かつ積極的に開示していること。例えば、ファクトブック、ウェブサイト等」は第 11 位となった。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「**ディスクロージャーの改善が著しい企業**」に選定した。

以 上

# 2023年度 ディスクロージャー評価比較総括表（食品）

（単位：点）

順位	評価項目	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
	<b>評価対象企業</b>												
1	アサヒグループホールディングス	91.1	30.4	2	16.9	1	7.5	3	28.9	3	7.4	1	2
2	味の素	90.1	30.6	1	15.6	2	7.3	5	30.0	1	6.6	2	1
3	キリンホールディングス	85.9	27.8	3	14.2	3	7.5	3	29.8	2	6.6	2	3
4	不二製油グループ本社	75.2	24.2	4	12.3	13	7.0	7	27.5	4	4.2	11	4
5	日清食品ホールディングス	73.8	21.9	8	13.9	6	6.8	11	25.5	5	5.7	6	8
6	明治ホールディングス	71.8	23.0	5	12.4	11	7.0	7	24.6	6	4.8	9	5
7	日本たばこ産業	70.2	20.7	10	14.0	5	7.6	1	23.5	7	4.4	10	11
8	ニチレイ	69.9	22.5	6	14.1	4	6.7	13	21.3	11	5.3	8	10
9	カルビー	69.6	19.9	11	12.4	11	7.6	1	23.3	8	6.4	4	5
9	森永乳業	69.6	21.8	9	13.5	7	6.8	11	22.0	9	5.5	7	7
11	日本ハム	68.1	22.0	7	11.6	15	6.9	10	21.6	10	6.0	5	9
12	日清製粉グループ本社	63.1	19.6	12	12.5	10	7.0	7	20.1	13	3.9	12	13
13	サントリー食品インターナショナル	59.4	18.5	13	13.3	8	6.3	15	18.3	15	3.0	16	12
14	キッコーマン	59.2	18.1	15	10.2	18	6.5	14	21.1	12	3.3	14	19
15	ハウス食品グループ本社	56.7	18.4	14	12.7	9	5.9	19	16.9	18	2.8	17	14
16	キューピー	56.1	16.1	17	10.8	17	6.3	15	19.3	14	3.6	13	15
17	ヤクルト本社	54.4	16.4	16	11.5	16	6.3	15	17.4	17	2.8	17	18
18	コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス	52.1	14.9	18	9.3	19	7.1	6	18.0	16	2.8	17	16
19	東洋水産	45.1	11.8	19	12.0	14	6.0	18	12.6	20	2.7	20	17
20	江崎グリコ	41.1	11.0	21	7.3	21	5.7	20	14.0	19	3.1	15	20
21	山崎製パン	36.3	11.1	20	8.6	20	5.3	21	9.3	21	2.0	21	21
	評価対象企業評価平均点	64.71	20.03		12.34		6.72		21.20		4.42		

## 2023年度評価項目および配点（食品）

【評価期間：2022年7月～2023年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（34点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
<p>・経営陣が、IR活動に注力していますか。経営陣は、IR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていますか。また、経営陣が企業価値向上の手段としてのESGの重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えてありますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】</p>	20
(2)社外取締役との対話	
<p>・社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。</p>	4
(3)IR部門の機能	
<p>・IR部門に十分かつ正確な情報が集積され、業績の好不調にかかわらず、IR担当者等と有益なディスカッションができますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】</p>	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（18点）	配点
(1)説明会、説明資料等における開示	
<p>・説明会等において、会社側に説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。また、説明会資料等において、決算の実績および業績の見通しについて、収益および財務分析に必要な定量情報が十分に記載されていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】</p>	10
(2)インタビューにおける開示	
<p>・インタビューにおける会社側とのディスカッションは十分に満足できるものですか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】</p>	8
3. フェア・ディスクロージャー（8点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
<p>・経営陣およびIR部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。また、日英両言語でタイムリーに提供していますか。</p>	4
(2)リモートツールによる情報提供	
<p>・新しい働き方に即して、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、リプレイ、英語対応）を行っていますか。</p>	4
4. ESGに関連する情報の開示（32点）	配点
①企業価値の向上につながるようなマテリアリティの設定が行われ、開示されていますか。	8
②気候変動問題や生物多様性問題に関して、Scope3を含めた実績および中長期的な改善目標などを定性・定量両面で開示していますか。	8
③ダイバーシティや従業員エンゲージメントなどの人的資本に関する情報および、サプライチェーン上の人権リスクやその対応方針を積極的に開示していますか。	8
④ESGに関する取組みについて、統合報告書や説明会等を通じて、市場関係者の理解を得るよう努めていますか。	8
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（8点）	配点
①携わっている業態または業界の分析上有益な情報をタイムリー、かつ積極的に開示していますか。例えば、ファクトブック、ウェブサイト等。	4
②有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等を、オンラインを含めて有用な形で開催していますか。【充実していた見学会等名をコメント欄に記入して下さい】	4

食品専門部会委員

部会長	守田 誠	大和証券
部会長代理	角山 智信	三菱UFJモルガン・スタンレー証券
	五十崎 義将	東京海上アセットマネジメント
	鎌田 聡	大和アセットマネジメント
	マイケル ジェイコブス	ティー・ロウ・プライス・ジャパン
	高木 直実	SMBC日興証券
	藤原 悟史	野村証券

評価実施アナリスト（18名）

大庭 脩平	シティグループ証券	高木 直実	SMBC日興証券
奥下 諒	三井住友トラスト・アセットマネジメント	田中 英太郎	SOMPOアセットマネジメント
長田 佳三	JPモルガン・アセット・マネジメント	田村 真一	極東証券経済研究所
鎌田 聡	大和アセットマネジメント	角山 智信	三菱UFJモルガン・スタンレー証券
高 英詞	野村アセットマネジメント	勅使河原 充	朝日ライフアセットマネジメント
佐治 広	みずほ証券	滑川 晃	シュローダー・インベストメント・マネジメント
マイケル ジェイコブス	ティー・ロウ・プライス・ジャパン	仁井田 将	りそなアセットマネジメント
篠崎 智明	QUICK	藤原 悟史	野村証券
住母家 学	岡三証券	守田 誠	大和証券

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。